破天荒
教宣部
4986号
2015年
3月23日
化学一般京滋地本
全竹中労働組合

2015春闘2次回答
検討はしましたが…定期昇給分のみ

先週の木曜日、二回目の賃上げ団体交渉を行いました。ベア回答がゼロなもんで上積みを求めてもやっぱりゼロでした。賃金に対する向上は考えられないのでしょうか。

世間では

日産でベア5千円、トヨタで4千円、電機で3千円そして一時金は満額回答と景気の良い話が報道されています。私たちの上部団体である化学一般京滋でも今年はベア回答が5支部で回答されました。

政府の賃上げ要請

賃上げを促すという目的で一年前倒しで復興特別法人税は廃止され、景気回復を後押しするという目的で法人税改革が行われ、更に賃上げした企業には所得拡大促進税制という減税措置までついています。一時的なものと会社は言いますがそれでも受け取るんでしょう。

竹中では

世間の賃上げや政府の減税は整数桁のパーセントですが竹中でもし千円上積みしたとしても0・2%ほどの数字にしかなりません。

前労務担当の時には（業績の良いときに）「業績が悪くても世間が賃上げをすれば竹中もせなアカン」という理由でベアゼロで妥結した年もありましたが、今は会長が変わり考え方が変わったの一言で過去の発言を撤回されました。会社の回答理由の中には従業員の生活を考慮したの一言もありません。

これからどうすれば

例え、千円上積み回答があったとしても消費税分の補填ができるわけではありません。会社もまた上積みをしたからといって経営を圧迫するものでもないと思います。ただ会社に賃金体系を良くしよう従業員の生活も考えていてくれるんだという気持ちがあることが確認できるのは働く者にとって大きな励みになりますし夢や希望を持つことができると思います。

「一隅を照らす」

「一隅を照らす」という言葉は、竹中グループの理念の中でも使われますが、これまで漠然と「社会の片隅を照らすことの出来る人が立派な人だ」くらいにしか思っていませんでした。

「一隅を照らす」が、意味するところは、「お金や財宝は国の宝ではなく、家庭や職場など、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも代え難い貴い国の宝である。」ということらしいです。

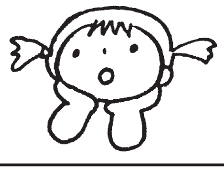
人は誰でも何らかの役割を果たすために、この世の中を生きてるともいいます。人をうらやんだり、あら捜しするのでなく、自分を信じて自分の場所で仕事に専心すれば、必ずいい仕事ができるはずです。

竹中グループも世界の中、そして日本の一企業であり、社会の中で一所懸命、光輝こうとしています。従業員はその竹中グループの中で一所懸命、光り輝こうとしてます。竹中グループは日本の宝であり、その従業員は竹中グループの宝なのだと解釈したんですけど、どこかズレてますかね？

ひとり言

竹中グループの経営方針書にある「善循環の三方良しの経営」は、あるべき姿への変革により、どうなってしまったのでしょうか。

今春闘もベア「0」回答で十四年間連続です。「社会に役立つ仕事ができていないから会社が発展しない。だから社員の生活は向上させない」ということになります。寂しいことです。

世間は賃上げの流れなのに。昨年4月の消費税増税や円安などで物価が上昇、実質賃金は前年同月比マイナスが続く中、正直なところ生活は低下していく一方です。個人消費を増やし、デフレから脱却し、経済の好循環を…と経営者は賃上げに努力しているのです。竹中では、固定費増になることは業績に影響する…うんぬん。従業員の生活向上の言葉は一つもありません。なんなんやよう。

三方良しの経営に、企業としての社会的責任を重視する精神を持ってもらいたいものです。